



徳島大医学部
中西 秀樹教授

・傷といってもちよっとしたことでできる「すり傷」から「やけど」「交通外傷」「褥瘡（とこずれ）」「糖尿病の足の壊疽（腐る）」など様々な種類があり、浅い傷から手術が必要な深い傷まで程度も異なります。従

や人工皮膚に近い医療創傷被覆材を用いて傷の処置をしてい

は良いとの考えに変わってきました。この軟膏や医療創傷被覆材を外傷用の治療法は傷をうるおった環境に保ち傷を早く治すのに必要です。

また、傷の新しい治療法としては最近開発された陰圧閉鎖療法があります。この方法は、深い傷の中にスポンジを入れて陰圧をかけて中の汚い浸出液を外に吸い出して、肉芽を盛り上げて傷を治す治療法です。手術後に傷が大きく開いた傷や褥瘡、糖尿病の足潰瘍など難治な傷の治療法として最近多用されています。

傷の治療法は、手術をしないで外用薬などを用いる保存療法と人工皮膚や植皮、皮弁などを用いる手術療法があります。傷がひどく細菌に感染した場合は、傷の消毒が必要になります。感染が強くなければ傷を消毒せずに水で洗います。強い消毒液を用いると、痛みや傷の治りが遅れたり、接触皮膚炎（かぶれ）になることもあるので注意しなければなりません。

傷の治療 正しく、早く、キレイに

醜状として残るばかりでなく心の傷になりやすへ、適切な治療が望まれます。

